

## スポーツでいきいき 卓球バレーサークル「あんず」が県2位

7/5 [Sun]



▲準優勝を飾った卓球バレーサークル「あんず」のみなさん

第10回ムツゴロウ杯卓球バレー交流大会（主催：佐賀県卓球バレー協会）が開かれ、多久市身体障害者福祉協会の卓球バレーサークル「あんず」が準優勝を飾りました。

卓球バレーは、1チーム6人ずつがネットを挟んで卓球台を囲むように座り、ピンポン球を相手コートへ3打以内に返す競技。障がいの有無にかかわらず誰もが楽しめるスポーツです。

出場した<sup>たしろまつこ</sup>田代松子さんは「初の上位入賞に会員みんなで喜び合った。この良い結果をチャンスと捉えて、さらに意欲を燃やして続けていきたい」と今後の意気込みを話されました。

## 災害で結んだ絆 宮城県南三陸町から多久市へ感謝状

7/9 [Thu]



▲市役所で横尾市長（前列左から2番目）に感謝状と記念品を贈った佐藤町長（前列左から3番目）と派遣された多久市職員ら（後列）

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた宮城県南三陸町の<sup>さとう じん</sup>佐藤 仁町長らが、復旧・復興のため同町に職員を派遣していた多久市を訪れ、<sup>よこ おとしひこ</sup>横尾俊彦市長に感謝状を手渡しました。

多久市は、震災の翌年から平成31年3月まで、同町に技術・事務系の職員を計11名派遣しており、平成27年度には「災害時における相互応援協定」を締結しました。

佐藤町長は「派遣いただいた職員の力添えあって今の南三陸町の姿がある」と、派遣された多久市職員1人ひとりと握手を交わしました。

南三陸町での10年間の復興事業も、本年度でほぼ終了する見通しで、佐藤町長は支援を受けた自治体や企業などを回って直接、感謝を伝えているとのこと。

## 空の道を作る トルビズオンと多久市がドローンを活用した連携協定

7/16 [Thu]

株式会社トルビズオン（本社：福岡県福岡市）と多久市が、ドローンを活用した地方創生連携協定を締結しました。

今回の協定は、上空の使用権をシェアできるサービスを提供する同社と、全国初のシェアリングシティ宣言を行った多久市がタッグを組み、市内の商工業者などの地元住民で構成する「多久市まちづくり協議会」の小型無人機ドローンを活用した取り組みを支援するために行ったものです。

同協議会は、市内の上空で今秋にも実証実験を行い、買い物支援などの地域ニーズに対応した、新しいサービスの実現を目指します。



▲市役所で行った連携協定締結式（左からトルビズオンの増本 衛社長、<sup>よこ おとしひこ</sup>横尾俊彦市長、まちづくり協議会の<sup>まさもと せいか</sup>世川俊一代表）